

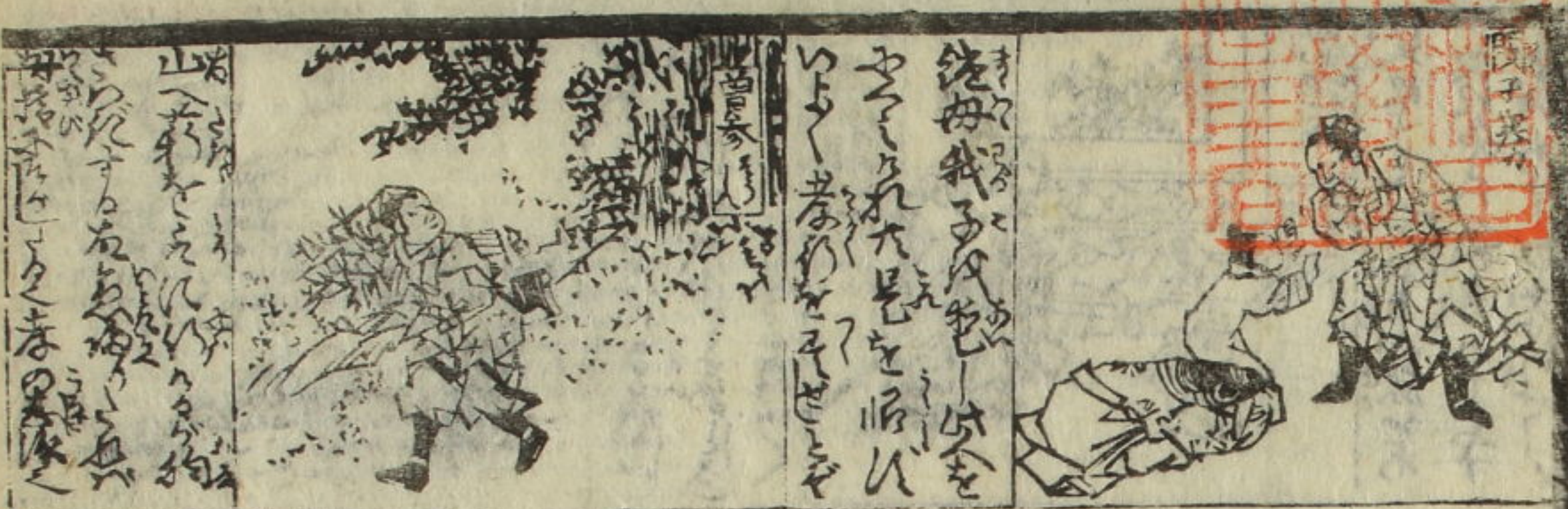


女孝經教草 全

9
3405



口 9
3405



友^{とも}に忠^{ちゆう}信^{しん}と孝^{かう}子^こは
 門^{もん}不出^{しでず}といひあむ
 吾^{われ}志^し出^での境^{かぎ}を
 家^{いえ}を以^{もつ}て聖^{せい}人^{にん}の教^{かう}
 之^{これ}を孝^{かう}成^{じやう}す

孝經

請本
并
送
吉

故
 横山有策氏
 昭和五年五月
 寄贈

210

門 9
號 3405
卷



身の抑孝、天地の
廣く人倫の孝、
鬼神を動し禽獸
と感し恭敬の道
三心ひほに修む



芳を施すと如く其
節不伐、以和柔貞
順仁、昭孝、慈、道、小
色、を、徳、ある、に、修
志、を、教、に、世、に、人、成、ら

女訓孝經

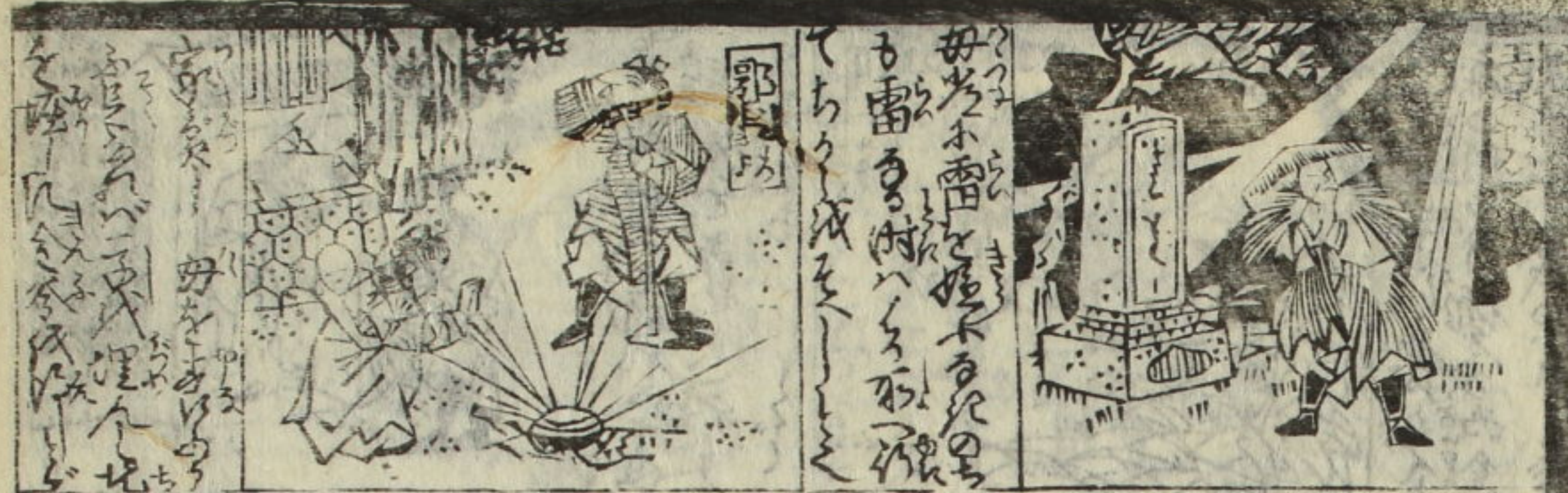
三



年七十以上は老いたるもの
のし舞をあらわす我年
はらたけをあらわす

母生るを我は川
水の上ホシるは
二つさうは若人海に放す

王祥



母を小雷とて
も雷もつはら
やちか成る

母を
母を
母を

妻子に心を傾け親
兄は教ひを失く
或は我身我道中
せむとて我理我
顔は思を忘れく

不孝といふ人多し
吏らめて母を捨
に心を傾け親
出る襦袢の中にも
竹馬の戯も疫病の



母の母を子に列れりて
母の母を子に列れりて
母の母を子に列れりて



父母の母の母に列れりて
父母の母の母に列れりて
父母の母の母に列れりて

患父母乃おのこむ交ふ
喻がししん成ひ産し
魂を蓄して幾度う
涙成ぬぐひひく度
う身をおかしく



漸育のげ物成る
一むらこ子にして
親既よ年老か露
光老一杜一と久
婦ひ病ふと久



約者かゝるひ清祿
あゆ
 と又之居もも心
とち
 あんあく死せし
えき
 と男ふらふ家おま
ちち
 縦きかといふも
とん
ちま



犬鷄を飼ふが如
いぬ
あひ
 親成者かといふ鳥
おや
ちま
 ぶふも者かといふ鳥
ちま
 子かおふ思ふ成者
あひ
おもひ
ちま
 せも成者かといふ
ちま

女訓孝經

六

親の母と念ふがほどし不徳
不徳不出世病なくとも父母
支男姑にあたり侍る子
那兒ふ志り況や身を怯
まじ智成影の母よ恥成

父ハ父母の身をも敬傷し
身一過も怯治し愛を
孝行と人倫第一の道す
小後人徳存と世余おん
て地も空をましく家富

榮^{さか}光^{ひかり}茂^{しげ}身^みと^とま^まる^るこ^こい^いふ^ふり

后妃^{こうひ}を^を第^{だい}二^に

右^{みぎ}の^の徳^{とく}の^の女^{にょ}所^{じょ}后^{こう}妃^ひ賢^{けん}淑^{しゆ}の^の婦^ふ

徳^{とく}を^を持^もち^ちて^て身^みを^を不^ふ淫^{いん}せ^せん^んと^とす^す

賢^{けん}を^をす^すめ^めて^て身^みを^を不^ふ淫^{いん}せ^せん^んと^とす^す

朝^{あさ}尊^{そん}に^に若^{わか}の^の不^ふ地^ち有^あり^ん

と^と茂^{しげ}思^{おも}ひ^ひ深^{ふか}く^くの^の閑^{かん}雅^{あや}な^な

此^{こゝ}に^に待^{まち}ふ^ふこ^この^の如^{ごと}く^くの^の身^み

是^{こゝ}に^に后^{こう}妃^ひの^の如^{ごと}く^くの^の身^み

夫人^{ふじん}章^{あや}第^{だい}三^{さん}

るに居て、けん 檢約と能く、ご 位と
ありしめ、こ 私かくも、きん 勤芳紙
書ふ、その 其祝徳と、しん 昭々
古書の教と、い 心象竹の
芽出さるに、め せと、し 君は、え 牙

小殃害なり、その せり、し 乃成ちるを
王儀と失し、その 人よく、そん 子孫と
和らむ、その 先祖と、しん 慕致ひ
邪と、その 軍て、しん 其誠と、そん 好ひ
あれ、ふ 吏人、そん 亦孝あり

邦君孝弟四

君賢けん小人じん夫夫人婦ふじん徳とくお
わ六家ろくけ治國ちこく安宗あんそう祖そ鬼神きじん
福ふくと賜たまひひみ教きょう豊あゆ熟じゆくに
し人民じん悦よろこぶぶ君きんよく法ほう

令れいとゆゆりり治ち人の徳とくを

庶人しよじん孝こう弟てい五

婦人ふじんの道みちの義ぎ理りの二に徳とく

よく福ふく人じんと先せんのの色いろを

後のちより夫おつと男おとこ弟ていの徳とく

法之兄嫂女公を以て終ひ織
終行續けしむと法に
万事儉して費と省
家内和円しんつゝ
己のて憐れ他人を以て

己は庶人の妻たる者なり

事習姑章第六

女子は舅姑不幸のや致し
父と母を以て孝と申す
己を以て孝と申す

あれを眺む後中夜
 遅く寐約いね、早く起おき、
 秋衣あきぎ後のちと心こころとみまひ
 横よこ睡ねと氣いき心こころ冬ふゆと温あたたか
 水みづ夏なつと清きよ一ひと昏あやふに

定さだ中ちゆう夜や晨あした者ものと致いた致いた
 心こころ内うち直ただ一ひと我われを
 以もつ心こころ亦またと方かた以もつ禮れいと心こころ
 多おほ次つぎも心こころ事こと中ちゆう夜や
 婦人ふじんと夫おつと心こころ家いへ我われ心こころ

とちの成よ嫁と帰る
は我家小唄といふ
ちの成ふまは家小唄
ての男と姑を我親よるま
重一 娘よ事一 娘

孝者たる孝なり

三才章第七

天と地との義と人

孝の義と天地人三才

いふかをたれとめい

人 ^{ひと} れ ^る こと ^{こと} 切 ^{きり} と 情 ^{つら} よ ^よ め ^め ば
 有 ^あ る ^る 處 ^{ところ} へ ^へ び ^び 丈 ^{だけ} と ^と 至 ^{いた} る
 仰 ^{おほ} 事 ^{ごと} なる ^{なる} 成 ^{なり} 地 ^ち 天 ^{てん} 竺 ^{ちく}
 煮 ^あ る ^る よ ^よ り ^り へ ^へ 美 ^み 物 ^{もの} と ^と 生 ^い
 づ ^づ の ^の 程 ^り る ^る 事 ^{こと} と ^と 終 ^は 婦 ^ふ 人 ^{にん}

と ^と 別 ^{べつ} 小 ^{せう} 至 ^し 君 ^{きみ} 下 ^か 夫 ^{おつと} と
 至 ^し 人 ^{にん} へ ^へ 致 ^{いた} ひ ^ひ 丈 ^{だけ} の
 教 ^{きやう} 訓 ^{くん} 小 ^{せう} 報 ^{ほう} せ ^せ る ^る 陸 ^{りく} の ^の 陽 ^{やう}
 了 ^{りやう} 隨 ^{ずい} 小 ^{せう} 道 ^{だう} 程 ^{りやう} 小 ^{せう} 積 ^{せき} 産 ^{さん}
 へ ^へ 至 ^{いた} る ^る 事 ^{こと} あり 也 ^{なり}

夫に送るく天道は爵
と交復るるに

孝治章第八

古に淑女女孝と云く
うらと治侍を馬中は

妻妾と子とを以て次や
姫よ於てとや右小親
者に睦し人々小睦
子とを以て男姑夫の
よかるひ嫌中姑正位

忠^{あつひやう}意^い世^よと^とあ^あま^まら^らず^ず 貞^{まこと}く^く
 嫉^{いん}妬^{ねた}は^はら^らる^るに^にあ^あま^まら^らず^ず 夫^{おつと}は^は
 切^きひ^ひも^もお^おの^の川^{がは}を^をさ^さぐ^ぐ 心^{こころ}を^を
 家^{いへ}内^{うち}和^わ同^{どう}し^し 福^{ふく}日^ひ々^々来^きり^り
 福^{ふく}乱^{らん}起^{おこ}る^る事^{こと}形^{かたち} 是^{こゝろ}を^をあ^あま^まら^らず^ず

学^{まな}ぶ^ぶ上^{うへ}中^{ちゆう}級^{きゆう}活^{かつ}る^るよ^よら^らず^ず
 賢^{けん}明^{めい}章^{ちやう}第^{だい}九^く
 古^{ふる}賢^{けん}の^のか^かる^る婦^ふ人^{にん}の^の若^{わか}き^きは^は
 過^{あやまち}あ^あれ^れば^ば財^{さい}貨^かを^をあ^あま^まら^らず^ず
 小^こと^とお^おし^して^て名^なを^をあ^あま^まら^らず^ず 先^{まづ}

悪て逆あ後あたの
いも依初よも嫉妬のん
かく自らよ死あて道め
て何ふ妻ををさくる
事とる一居少れ道城

歌さげ後すと何者愚昧を
憐も中鄙をて越後かろ
しも是賢明の婦人の姿也
紀徳の素笈十
古く賢婦人之上に飛く

婦めづくく以も下しもととてて礼れいをを氏し
醜しうおおあありりととくく事ことのの夫つまお
事ことのの也や負おと責せままりりととてておおみみ容よう
おおととわわくくとと是こゝ者もの振ふる舞まひののあ
静しずかかししととててははししみみ

ううららととははゆゆりりをを湯ゆ浴よく飲いん食じき
ののままりりととてて父ちち子こ兄あに弟あにををととてて親おや
とと情なさけをを言いふふとと約やくととししてて不ふ指さしとと
るるけけををとと婦めづ人ひとのの礼れい義ぎ傳でんりり
ららののししめめををととてておおみみ容よう

六刑章第十一

六刑は屬之ふ法を不察
 より大を好しとを
 中にも婦人の嫉妬を大なる
 飛とひふは嫉妬の類を

自らに婦人たるに於て
 小つと物さへし其本人情
 終ひて生かざるは嫉妬
 もとを容れざるは法をひそ
 惜む親類縁者の中も



疎とろふとろたりとろ邪よ見けんははわわむむしし
 面めん小せうああくくししれれををにに支し媽まの
 道みちもも和わ同どうささうう新しんああれれ嫌きら
 妬ねたまま飛とりり殺ころすす我われ心こころをを
 婦ふ人と七しち去きよのの首くび小せう不ふ孝こうと
きり

出いせせをを婦ふ人と心こころをを負おくく心こころ直ちか
とのの魂たま成なり磨こりり柔なれれ弟あ一いつに
 人ひととと傾かひひ肉にくをを程ほどめめ門かどをを
 介かのの事ことにに拘くははりり目めはは糸いと
 狗いぬ次つぎ年としとと考しるふふにに道みち一いつ以もつて
と

歩あゆむまにま欲よくをい禁ぎんじじししるるにに
 酒さけ宴えんああしし生なま見けん物ぶつ事じああるる席せき
 比ひ列れつをを舞まいいししままああてて見けん妙めう
 ちちるる夢む欲よくすするるももをを附つくくをを坐ざ
 張ちやうふふももららにに妨ぼうかかししるるをを坐ざ

跡あとしし一いちとと無む常じやうのの事じをを總そう
 ちちりり又また嫌けん疑ぎをを遊ゆうぶぶととてて今いま
 性じやうししのの心しんをを疑ぎふふとと坐ざすすをを坐ざすす
 動どう依い初しよよよももももとと感かんずずるるにに次じにに
 聖せい人にんはは教きやうををかかるる

廣要道章第三

女子を男姑に事するに力を
 有し終ては之を婿如く
 奉じ親類縁者と疎きを
 にせむよする人哉歎ひ中哉

あゝ婦人として人か
 小あゝする賄とけり
 姑の賜と一とありき
 礼をわたりて法法
 又女の徳を

人の富と善と徳と他行の
面とありふに見えん夜約の
幅より後ハゆい兄弟紙
送家も門はか一歩は生家
沙のよも徳道くまらひ

あれ婦人の要道かを
廣方伝奉第十
天祐道と立と陰と陽と
いひ地のさ城立て築と別
堂いふ陰陽別築とて地の

りめ男女なんにょ夫婦ふうふ八人倫はんにんの
 始はじめなりなり夫おとこと天あまとと行ゆ婦めかけ
 と地ちとと行ゆ道みちとと行ゆ婦めかけ
 陸りく陽やうとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 道みちとと行ゆ夫おとことと行ゆ婦めかけと
 道みちとと行ゆ夫おとことと行ゆ婦めかけと

然しかも男おとこと女めかけとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 夫おとこと女めかけとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 地ちとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 道みちとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 夫おとこと女めかけとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 地ちとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 道みちとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 夫おとこと女めかけとと行ゆ夫おとこ婦めかけと
 地ちとと行ゆ夫おとこ婦めかけと

随て美物と生むるが如く
いづろ えん あ い か く
 夫の徳は随て事ごとく
かつと とく い ごと つ ごと
 一生安穩小終海邊なり
いつしや えん かん かい う べ な り
 存小姉の教とあり信と
ゆ あ い の あ い と あ り しん と
あんなの い ち
 信を弟と云ふとあり
しん を あ い と い ふ と あ り

廣揚名素身十四
くわ やう な む す み じ ゆ
 女子は父母小事小なり
む し は ふ ぼ こ じ こ な り
 かねて嫁して舅姑小事も
かね て よ め し て けう こ こ も
 女子は有り舅姑小事なり
む し は あ り けう こ こ な り
 夫姨小をこそとくあり
む つ い を こ そ と く あ り

睦むつまく又また親類しんるい縁者えんしやをを隣りん小せう

ああままままぐぐとと世よにに元もと多た元もと世よと

よよ父母ふぼ兄弟けいだい并ならにに名な義ぎあり

天てん中ちゆうにに参まゐれれとと皆みないいははるるははるるひ

肉にく小せうなりなりてて名なほほ世よ小せう多たとといいふ

練淨れんじやう身み身み十じゆ六ろく

婦ふ人にんらら夫おつととと夫おつととと一い人にん小せう慮りよ貞ぢん

孝かう義ぎととりりてて事こととといいふふも

夫おつとりり不ふ義ぎ此こゝ道みちのの有あり

とと此こゝにに練れんりり乃すなはちちよりより其その

例しやうとくとくおおくくはは男おとこ姑めかけと

いいるるののいいははも

神かみ徳とくはは道みちがが一ひとはは世よにに從したがふ

者もの教しよははいいふふ道みちににままままははくく

ああららままははいいふふ事ことはは一ひとははのの

姪めい乱らん不ふ義ぎ水みづ道みちののととああららふ

我われ女によととああららずず者ものがが義ぎ能のうに

いいふふもも一ひとはは怒いかり怒いかり

會あひまひつつららはは支し律りつとと體たいはは

いいふふ先せん賢けんくくははままはは

後のち小こ男おとこよよりんん和わららんん

 とと此こゝ海うみくく練ねんじじ海うみ

 此こゝはは此こゝのの男おとこはは此こゝのの女め

 きき悪あくとと危あやめめるる事こと

 之こののの十じゅう年ねん後ごをを以もつて

男おとことと不ふ義ぎにに臨おちひんん

 古いにしへくくはは古いにしへくくのの國くに

 とと治ちめめるる名な成なほほ世よはは結むすぶぶ

 賢けん女にょ和わ漢えんにに是この訓おしな

 一ひとははれれととくく待まちたた是こゝ

胎教孝弟十六

夫一人之身常此理と交
生々として心性と習ふ
あり右小言年移れど
吾一人とあり悪く移れど

悪人との交ふは皆直に
よるが右の教不婦人
懐妊もねむる時不側
は生もるにこそすべ
直不破せ人の味を食

女川孝經

卷

世に左道と履を割れ
 正に女をねい念を
 席にのりて坐る
 目も悪く起るを
 耳に悪く知ると
 徳に

悪く出さるに
 何れも起るを
 夜に正しく
 居振舞ふに
 正しく
 子

形家端かたがはの才徳人さいとくじん

小橋こはし海うみの才徳人さいとくじん

昭あきら文ぶんとありて徳也とくなり

母儀ぼい孝こう等ら十七しち

夫人ふじん也なり母ぼを多おほく敬やうむる

之これ礼義らいぎを明あきらめしむ

同どうとありて思おもふ徳也とくなり

出いずる人ひとは教おし育そだむる

を以もつて勅しつと禮らいふ

うるひと云いふなり

經あり男子えんより六ろく歳あり
 教けうと方ほう角かくと成なりなり（七歳
しちさいより）
しくえん男女にやう席せきをおけり
 各おの人ひと食を成なり共ともり（せん
ぜん）
 八はち歳さいあり（ひつひつひ
ひつひつ）

智ちつせ十じゅう歳さいより
 師しをしり（はり）むし出で入い
い毎まい一いつ日にち好こうく（はつ）法はふを
お修しゆふ（はつ）必かならず（はつ）常じやうあり
お智ちより（はつ）一いつ日にち好こうく（はつ）

業わざふり居ゐりら奥おくに
主しゆ考かうく浪なみ生なままら海うみうら
席せきに中ちゆうせり終はつく小こ道みちふ
中ちゆうせり立たい門かどは中ちゆうせり
る死しよ終はつく浪なみ生なままら

浪なみ生なままら初はつも終はつくら
何なに物ものも笑わらひぬ松まつ花はな
付つあらしむ立たいふら方かた
とふし耳みみ越こえぬ
独ひとりり男女おとこの別わかれを考かう

煙うすかひをををををううああ疑うたがり
火ひをを庭にわ中なか柳やなぎをを同おなせん
女に子こ七しち歳さい一いつ人ひと四し徳とくと
發は由ゆ身み一いつ小こ婦ふ徳とく
ふふ小こ体ていああるる若わかかかをを二ふた

小こ婦ふ言げん口くち小こ小こ洞ほら身み
三さん小こ婦ふ若わか身み小こ小こ疑うたがり
かかここちちちちりり案あんハハ婦ふ功こう
多た小こ小こ家か業ごう女に子こハ
親おやのの小こ小こ止とどみみハハ智ち

中邦の婦道を
 教ふは母の者の
 道よりなる業
 三 舉 惡 素 身 十 八
 女 道 之 法 也

男もあつては男強
 第一とするはも
 國々の政事におも
 家子治るは地
 凶惡あるは君の

怯^つ何^なの^なと^と集^あま^まを^をさ^さよ
 憎^やま^まう^うう^う海^うま^まの^の中^なり
 い^いか^かし^し女^めの^の顔^か容^{よう}更^し荒^あ
 の^のこ^こも^もま^ま君^{きみ}は^はな^なら^らま^ま
 か^かる^るふ^ふも^も婦^ふ法^{はふ}を^を死^し

婦^ふ人^{にん}と^とま^まさ^さら^らぎ^ぎし^し悲^{あは}し^まふ
 諸^{もろ}の^の國^{くに}と^とり^り海^{うみ}邊^へに^に家^{いえ}
 と^とみ^みぐる^る例^{れい}と^とく^くな^なら^らず^ずに^に次^{つぎ}
 敵^{てき}の^の世^よは^はな^なら^らず^ずや^や姐^{あね}と^とも
 里^{さと}起^{おこ}り^り周^{あろ}の^の世^よと^とも^もな^なら^らず^ずや^や

寝^ね如^{ごと}より起^{おこ}るを介^{その}介^あ奉^{うけ}
 てかぞふ^{人のま}屋^{のま}より次^{つぎ}婦^か人^{じん}
 賢^{けん}的^{めい}あること^{こと}を^ま知^しる^{せん}不^ふす
 み家^い治^ち至^し平^{へい}あること

嘉永四辛亥年新板

東都

書林

須原屋茂兵衛
 須原屋伊八
 小林新兵衛
 山城屋佐兵衛
 英大助
 丁子屋平兵衛
 和泉屋金右衛門
 菊屋幸三郎
 山崎屋清七
 和泉屋市兵衛
 山口屋藤兵衛
 藤岡屋慶次郎
 若林久兵衛
 吉田屋文三郎

